

裏山に彼の骸を運んで

手厚くひっそりと葬った

若き無名の侍の墓は

老夫婦以外は誰も知る者がなかった

老夫婦は彼の墓に

毎日香華をたむけて供養した

あれから

間もなく老夫婦も死んだ

死の前に

老夫婦は子や孫に

若侍の最後のようすを

くわしく話していた

戊辰の戦い……

明治維新……

あの時から

五年——

十年——